NIE実践報告

1．タイトル：生徒が意欲的に事実や考えを相手に的確に伝える表現の仕方を身につけていく新聞活用

2．学校名

長野県長野市立犀陵中学校

3．実践者名（代表者名）

遠藤由香里（佐藤裕美）

4．学年

1学年

5．教科・領域名および受講児童・生徒数

国語および総合的な学習の時間　２０３名

6．単元（本時の学習課題）名

「わたしも新聞記者！」（新入生への学校紹介新聞を作ろう）

7．目標（狙い）

新聞記事の書き方を使って、犀陵中学校を紹介する文章を書くことができる。

8．評価の視点

説明的文章と新聞記事を比較して、新聞記事の逆三角形型の書き方について理解し、それを活用して報道文の文章を書くことができる。

9．年間指導計画における本単元の位置づけと時数
（または、単元展開および時数と本時の位置づけ）

国語科　「書くこと」の領域における新入生への学校紹介新聞づくりの単元　全６時間扱い　本時は第２時間目（このほかに総合的な学習の時間での新聞づくりおよび発信の単元　全６時間扱い）

10．単元（本時）の学習展開（含む時数）と留意点

1　新聞記事を読み、今まで学習してきた説明的文章との違いを考える。（第１時間目）
2　新聞記事の書き方を説明的文章と比較してとらえる。（第２時間目）
3　紹介項目を考え、分担を決める。（第３時間目）
4　記事に書く材料を集める。（第３時間目）
5　集めた材料をもとにして、文章構成を考える。（第４時間目）
6　下書きを作成する。（第５時間目）
7　友達と作成した文章を読み合い、新聞記事の書き方に沿って書けているかを評価しあう。（第６時間目

11．児童・生徒の反応、感想・意見

身近にある新聞の記事がどのように書かれているかよくわかったという生徒の感想が多く見られた。しかし、実際に逆三角形型の文章を書くことについては、はじめはこつがつかめなかったが、徐々にこつがつかめて書けるようになったという生徒が多くいた。

12．成果と課題

新入生に向けた学校案内を報道文として書く単元を設定したことで、生徒は主体的に学習に取り組めていた。国語科から総合的な学習の時間に移して、原稿を書いたり取材を行ったりし、発信することができた。
新聞を通し、問題解決の思考力・表現力や周囲とのコミュニケーション力、情報処理能力などを身につけていきたい。生徒の実態に即して、新聞の幅広い可能性を教室でどのように指導し、どう活かしていくのがいいか。